北海道新聞　令和2年1月18日（朝刊・地域の話題/17面）

海外の協定校と連携強化へ

樽商大・穴沢次期学長

3大統合「発展につなげたい」

15日の学長選で小樽商科大の次期学長に選出された商学部教授の穴沢真氏(63)が17日、学内で記者会見を開いた。穴沢氏は、2022年4月を目指す帯広畜産大と北見工大との経営統合に関し「3大学の教育と研究資源を集結して北海道経済と産業の課題を解決し、発展につなげたい」と抱負を述べた。

穴沢氏は、3大学統合による教育連携について各大学の学生が集まって行う合宿研修プログラムを実施する方針を表明し、「交流を深めて互いに刺激し合い、教育効果を高める」と強調。研究面では、各大学のノウハウを生かした6次産業化への貢献の可能性が広がるとの認識を示した。

小樽商大で力点を置く取り組みでは、海外の協定大学の教員を招聘(しょうへい)し英語で行う授業を増やすなど協定校との連携を強化する考えを提示。同大が21年度から、交換留学生と学生が共に英語で学ぶプログラム「グローカルコース」を導入することを踏まえ、現在予定する15科目を「拡充することが重要になる」と語った。

少子化を受けた学生確保対策では、16、17年度に青森市、18、19年度に仙台市で入学試験を実施するなどに取り組んできたとした上で、高校時代に英語による授業を受けた経験がある生徒をターゲットに挙げ「グローカルコースも始まる。本州出身者も含めて学生を集めたい」と述べた。

穴沢氏の任期は4月1日から4年間。

（前野貴大）

「海外の協定校との連携を充実させたい」と述べた次期学長の穴沢氏

読売新聞　令和２年１月18日（朝刊/27面）

3大学経営統合 着実に

小樽商大 穴沢次期学長が抱負

記者会見で質問に答える穴沢教授（17日、小樽商科大で）

4月から小樽商科大（小樽市）の新学長に就任予定の穴沢真教授(63)が17日、学内で記者会見した。2022年度の帯広畜産大、北見工業大との経営統合について、穴沢教授は「3大学の教育・研究を集結して北海道経済の課題解決につなげるのが究極の目的。連携教育プログラムや遠隔教育システムの開発など、着実に歩を進めたい」と述べた。

経営統合の学生へのメリットについては「各大学の教育のノウハウが融合する。例えば、新入生キャンプなどで(3大学の学生が)交流し、刺激しあうことで教育効果が高まる」と説明。

小樽商科大の運営では、今後も地域貢献を重視する考えを示し、「地域のシンクタンクとしての機能を拡充し、3大学が協力して地域研究をさらに進めたい」と強調した。国際的な視野を備える「グローカル人材」の育成については、学生の語学力が不十分と指摘し、「英語で提供する科目の拡充など、（教育プログラムを）一層強力なものにしたい」と語った。

北海道新聞　令和2年1月18日（朝刊・地域の話題/17面）

色内大通り活性化探る

20日にシンポ

シンポジウム「色内大通りの魅力と可能性～歴史的建造物を活かすまちづくり～」が20日午後6時半から、小樽市色内2のカフェバー「石と鉄」で開かれる。

小樽商大グローカルプロジェクト「日本遺産による小樽の歴史文化の広域観光資源化」（高野宏康代表）の主催。色内大通りは手宮地区と旧銀行街をつなぐ市道本通線の通称で、沿道には市が5月の認定を目指す文化庁「地域型」日本遺産の構成文化財が立ち並ぶ。

市日本遺産推進協議会委員の駒木定正さんが基調講演。その後、点在する歴史的建造物を観光客に回遊してもらう仕掛けなどを地元経営者らが話し合う。入場料代わりに飲み物を1杯注文するワンドリンク制。申し込みは高野さん☎080・5423・7658へ。

（西依一憲）

北海道新聞　令和2年1月19日（朝刊・地域の話題/21面）

問題用紙や解答用紙が配られ、試験開始を待つ受験生たち

激励受け「やりきる」

樽商大でもセンター試験

大学入試センター試験初日の18日、後志管内で唯一の会場となる小樽商科大でも試験が始まった。受験生は緊張した面持ちで、保護者や教諭の応援を背に志望校合格への第一関門に挑んだ。小樽市内は天候に恵まれ、交通機関の乱れはなかった。

午前8時すぎ、受験生はタクシーや保護者が運転する車で続々と会場入り。入り口付近で待っていた高校教諭らから「頑張れよ」「健闘を祈る」と激励を受けていた。

道教育大函館校を目指す岩内高3年の長谷川千優（ちひろ）さんは「自分を信じて最後までやりきりたい」と語った。小樽桜陽高3年の山瀬優さんは「今までやってきたことを精いっぱい出したい」と力強く話した。

同大で受験する志願者は計550人（前年比3人増）。この日は地理歴史・公民、国語、外国語の筆記、英語のリスニングの試験が行われ、大きなトラブルなく終えた。最終日の19日は理科と数学の試験を実施する。（前野貴大）

北海道新聞　令和2年1月20日（朝刊・小樽後志版/17面）

大学入試センター試験試験場

成果出せた さあ2次へ

小樽のセンター試験無事終了

大学入試センター試験は最終日の19日、小樽商大でも理科と数学の試験が行われた。トラブルや交通機関の乱れなどはなく2日間の日程が終了。最後のセンター試験の受験生となった生徒たちは、試験を終え、友人と感想や手応えを語り合いながら帰路についた。

この日は午前9時半から試験が始まり、予定通り午後5時40分に終えた。受験生はひとまず緊張から解放され、ほっとした表情で会場を出て、迎えにきた保護者らに笑顔を見せた。

室蘭工業大学が第一志望の小樽桜陽高3年の深瀬怜央さん(18)は「理科は手応えがあった。一息ついてから気持ちを切り替えて2次試験に挑みます」。小樽潮陵高3年の宮井遊さん(17)は「高校1年の時からセンター試験に向けて勉強してきた成果を出し切れた。英語を学べる大学に進学したい」と話した。

（日野夏美）

センター試験を終え、一息ついた様子で小樽商大の会場を後にする受験生